

## F-11 婦人労働が漁村主婦の地位、役割に及ぼす影響

お茶の水女大家政 湯沢雅彦 高知大教育 ○鈴木敏子

目的 女性が生産部門で重要な役割を占めかつ経済力をもっている地域では、一般に女性の地位が高いといわれ、その一つに漁村の海女があげられる。海女の有名な志摩半島の一漁村で、私達が継続してきた家族の調査研究においてもこのことを絶えず追求してきた。そして、家族の権威構造を分析した結果、家族内で主婦の発言力は強く、これに対する夫婦の就労形態と家族構成の影響が大きいことを報告した(家政誌24巻3号)。今回は、過去数回の調査を通して、主婦の生活構造を、特に婦人労働との関係で明らかにし、多面的に漁村の主婦の地位および役割について考察したい。

方法 調査地：三重県志摩郡阿見町安乗。調査時期と調査対象：昭和45年1月～47年9月の間に実施した7回の調査より。主分析は、45年7月2日～5日(小学校1、5、6年生の母親113名)、46年7月5日～8日(小学校5年生と中学校2、3年生の母親107名)の2回の大量調査である。調査方法：2回の主調査とも面接調査。

結果 年代が低まるほど海女が減少するなど、時代に応じて婦人の就労構造は変化しているが、95%もの主婦が働く大勢は動いていない。1日平均9時間の長時間労働をし、睡眠時間は6時間半位しかとっていない。63%が新聞や雑誌を読まないといい、85%が安乗の生まれで、遠出する回数はいくつか少なくせいぜい親類縁者の入院見舞や買物等の所用のためであり、行動空間は狭く、余暇活動は乏しい。にもかかわらず、労働の面において主婦の役割が明確で、労働中心の生活を営んでいることが、主婦の存在価値や生きがいをもたらす、夫婦の対等感を高めている。